

矢吹町におけるデータ連携基盤の 運用状況とD X推進

令和7年1月31日

福島県矢吹町



自己紹介

- 氏名 鈴木 一史（すずき かずふみ）
- 役職 矢吹町副町長
- 経歴

平成15（2003）年4月 福島県職員採用

～以後、農政や法務、防災、人事等を担当

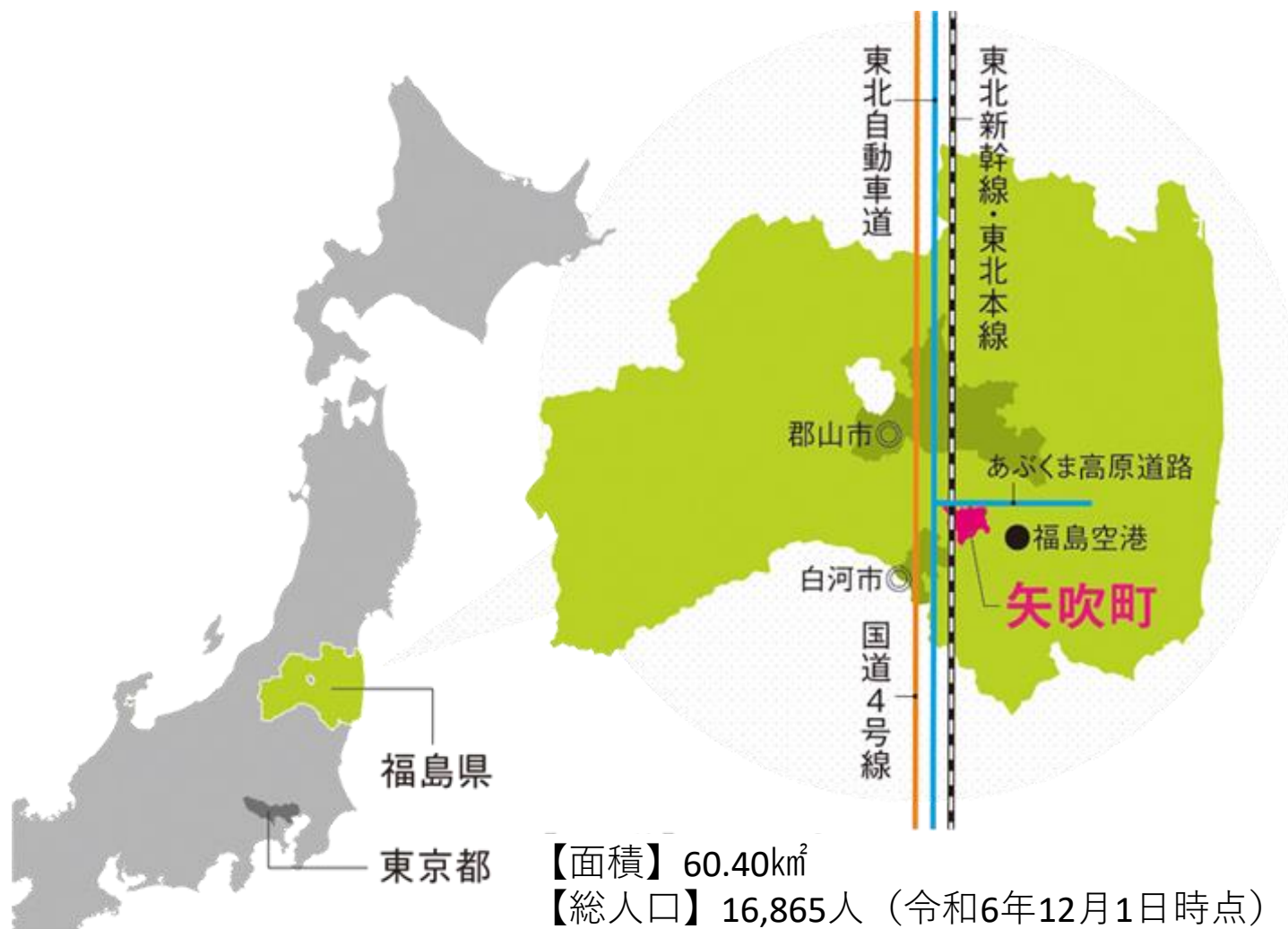
令和3（2021）年4月 福島県企画調整部デジタル変革課主任主査

※県のDX推進、データ連携基盤構築等の
プロジェクトリーダーを務める。

令和6（2024）年4月 現職



矢吹町の紹介



- 福島県の南部に位置
- 人口は約17,000人
- 充実した交通体系（空港、高速道路、鉄道）により運輸業が盛ん。
- 町の約半分を農地が占めるなど、農業は町の主要産業のひとつ。
- 名誉町民は、中畑清氏
（元読売巨人軍選手、元横浜DeNAベイスターズ監督）
- 姉妹都市は、東京都三鷹市

矢吹町の取組

デジタルサービスで意識している視点

- 町民一人ひとりが、自ら選んで（オプトイン）、自分に合った（パーソナライズ）デジタルサービスを受けられる、より良い地域社会（Well-Being）を実現する。
- そのためのツールとして、マイナンバーカード、データ連携基盤を活用する。

矢吹町の取組

●データ連携基盤を含む全体像

子育て・こども	スポーツ振興	地域公共交通	防災	+α
• 子育てに必要な情報が見つかる、パーソナライズ情報サービス • キャリアに生きる地域学習コンテンツ情報と成果証明	• スポーツテストや体力測定のデータを収集、分析 • 運動能力向上や健康になる過程を可視化し、スポーツ科学を軸に健康プログラムを推進	• 公共交通や道路状況のデータをリアルタイム収集 • 効率的な交通手段の選択や渋滞回避ルートの案内などを行う	• 気象データや防災情報を収集、分析 • 地震や洪水などの災害情報、避難所の開設情報を防災ポータルでリアルタイムに提供	• こどもや高齢者の見守り • 地域ポイント ・・・etc ※新たなサービスを検討中

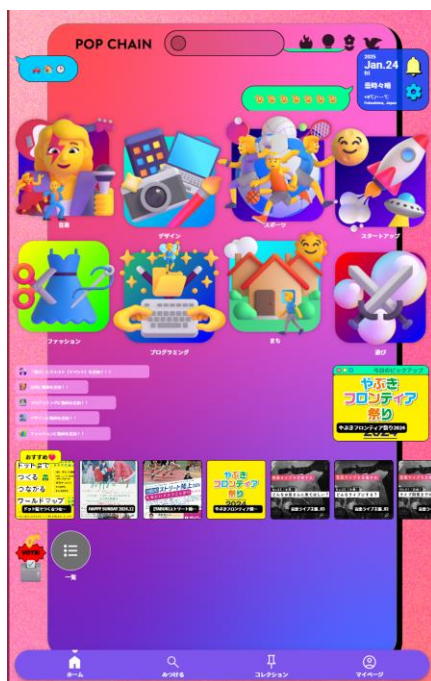
データ連携基盤（①県、②狛江市・矢吹町）

矢吹町の取組

子育て・こども

●学習履歴や活動履歴の証明

- ブロックチェーンとNFTを活用して、子どもたちの学習履歴や活動履歴を証明
- 地域の資源をデジタルで共有し、活用



矢吹町の取組

スポーツ振興

●矢吹町スポーツ×デジタル振興プロジェクト

- 官民連携により、トップアスリートを指導するトレーナーと共同でスポーツ科学に基づいたソフト事業を開発
- データの可視化から分析・改善、遠隔によるオンライン指導、バーチャル体験等**デジタルを活用**した住民のウェルビーイング向上や、地域のジュニアアスリートの競技力向上を加速化
- データ連携基盤**を通じた他自治体とのサービスの相互利用

〈総合的な取組内容〉

① ウェルビーイング向上を実現させるソフト事業の開発

体力・運動 能力向上	タレント 発掘事業	スポーツを 活用した 英語教育
ヘルスケア	ジュニア アスリート 活動支援	デジタル 地域通貨と 体験の運動

② スポーツコミッションの設立

(仮称)
矢吹スポーツコミッション

③ スポーツコミッションとハード整備による相乗効果



④ 効果

①
賑わい創出

②
**データ連携
基盤を通じた
サービスの
相互利用**

矢吹町の取組

スポーツ振興

●矢吹町スポーツ×デジタル振興プロジェクト

スローガン



Sports × Digital Promotion Project
スポーツでつながろう！
Town of YABUKI

Vision

誰もがそれぞれのカタチでスポーツや運動を楽しめる町として

多くの人が集まり賑わう町へ

Concept

スポーツや運動を軸に

多様な交流が生まれ、人と町を育む場

デジタル活用により、人・知識・情報が集約する活動拠点へ

矢吹町の取組

スポーツ振興

● 矢吹町スポーツ×デジタル振興プロジェクト

1. 体力・運動能力向上

昭和60年ごろを境に低下している子どもの走る力、投げる力、握力などの体力・運動能力の改善を図る。スポーツテストを可視化してデジタル連携によりの確なアプローチを実現する。

【対象】小学生

2. ヘルスケア

成人以上を対象とした機能改善プログラムを実施。失われた動きを取り戻し、心も体も健康にする。Well-beingの実現。まち全体の医療費削減にも寄与する。

【対象】働き世代、高齢者

3. スポーツを活用した英語教育

子どもの体力・運動能力低下の課題を解決すると同時に、英語のアウトプット能力向上を目指す。インプットが中心となっている学校教育との相乗効果を出す。

【対象】小学生

4. タレント発掘事業（個へのアプローチ）

潜在能力（ポテンシャル）の高いタレントを見出し、優れたコーチから質の高い育成プログラムを提供し、千葉麻美氏に続くスター選手を育成する。食も含めた多角的なアプローチに取り組む。

【対象】中学生の競技者

5. ジュニアアスリート活動支援

町内のジュニアアスリート・部活動に対して、プロ・トップアスリートを指導するトレーナー、管理栄養士による競技力向上を目的とした支援を行う。（団体へのアプローチ）

【対象】中学校・高校の部活動

6. データ連携基盤との連携（R7～予定）

スポーツ活動や健康活動記録のデジタル化のほか、学びの体験や地域活動を含めたデータ連携基盤や地域通貨との地域間連携により、広域的なまちの賑わい効果へと波及させていく。

【対象】家族

矢吹町の取組

スポーツ振興

● 矢吹町スポーツ×デジタル振興プロジェクト

「スポまち！長官表彰2023」を受賞

本プロジェクトの取り組みが評価され、令和5（2023）年11月10日スポーツ庁の「スポまち！長官表彰2023」を受賞



矢吹町の取組

● A | オンデマンドバス

□町内を運行する**地方路線バスなし**。

□平成30（2018）年度より、高齢者の移動支援として「行き活き**タクシー**利用料金助成事業」を実施。

✓利用者が年々増加傾向。「タクシーを呼んでもすぐに来てくれない」などの意見があり、**タクシーの需要に供給が追いつかない状況**。

□令和4（2022）年度より、年々増加する移動需要に対応するため「矢吹町**コミュニティバス**実証実験運行」を実施。

✓利用者は12人/日 程度と伸び悩む。

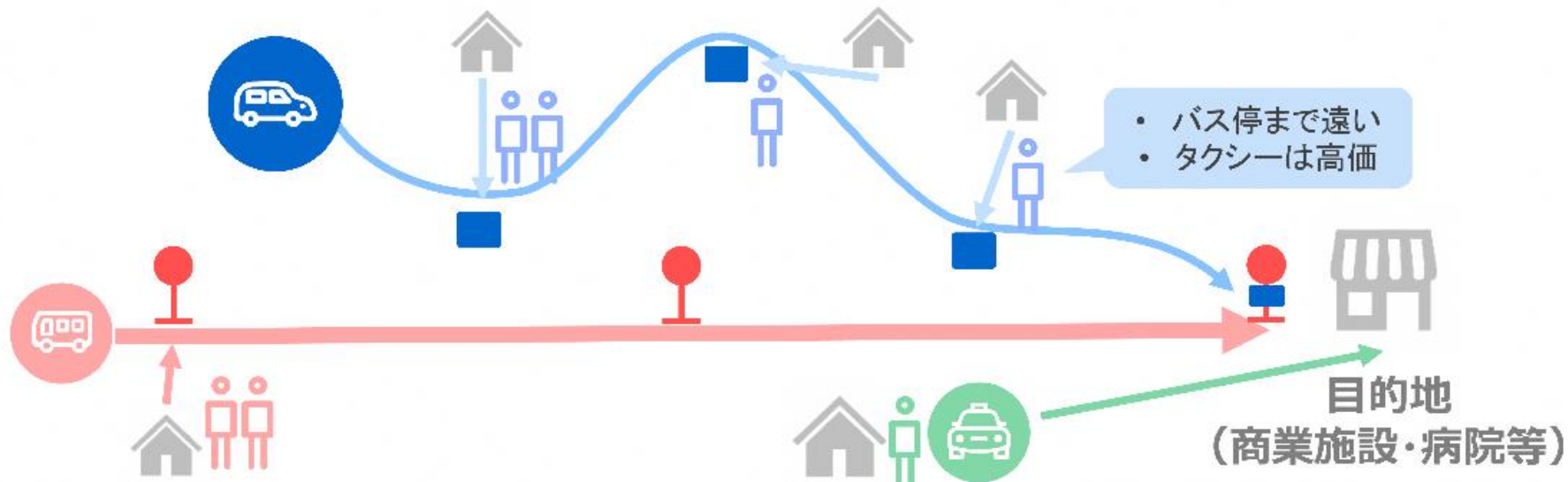
✓「停留所が遠い」「利用したい時間にバスが来ない」などの意見があり、**バスの利便性向上が課題**。



矢吹町の取組

● A | オンデマンドバス

決まった経路が無く、決まった時刻表も無い、予約型のバス。
路線バスとタクシーの中間のサービスで、幹線交通（鉄道・路線バス）を補完する役割



矢吹町の取組

地域公共交通

● A | オンデマンドバス

● オンデマンドバスの位置付けと棲み分け

	路線バス	オンデマンドバス	タクシー
運行路線	既定路線のみ運行可	どこでも自由に運行可	どこでも自由に運行可
ルート生成	事前にダイヤ作成が必要	AIが最適ルートを自動生成	無し
予約有無	予約不要	アプリや電話で事前に予約	必要に応じて予約
時刻表有無	有り	無し	無し
乗降場所	バス停	専用の乗降ポイント	どこでも可

矢吹町の取組

地域公共交通

● A I オンデマンドバス

□ 「AI活用型オンデマンドバス」の導入により、町内のどこに居住していても、買い物や通院・通学などの日常生活が安心して送れる「自ら移動方法を選び、快適に暮らせる～だれもが移動しやすいまち『やぶき』～」を目指す。



令和7年1月15日運行スタート

福島県防災アプリ

防災

□迅速で適切な避難行動に必要な防災情報を一元的に提供し、自分に合った避難行動について考え、備える「マイ避難」を県民に促す機能を持つスマートフォン用アプリ

アプリ機能要件：トップ画面イメージ（主な機能）

令和6年3月リリース

●天気予報

- ・現在地の気象庁天気予報と、気温を表示します。
- ・災害モード時は、防災アラートを表示します。

●現在地の情報

- ・ハザードマップの内外判定と、判定レベルを表示します。
- ・気象注警報が発表されると、発表アラートを表示します。
- ・避難情報発令時は、発令アラートを表示します。

●防災情報・お知らせ

- ・現在地の防災情報や福島県のお知らせを、時系列で一覧表示します。



●ふくしま避難シート

- ・ふくしま避難ノートの作成画面を表示します。

●避難所検索（全国の避難所に対応）

- ・現在地周辺の避難所/避難場所を自動検索して地図に表示します。

●家族の安否

- ・家族の安否情報や避難状況、位置情報の共有画面を表示します。

●備蓄品リスト

- ・備蓄品リストの作成画面を表示します。

東京と地方の共存共栄に向けて

課題

- 地方が地域課題の解決に資するデジタル技術の開発コスト（ヒト・カネ）を負担するのには限界がある。
- 地方にはIT企業や技術者と渡り合えるような、また数多くのアプリやサービス（デジタル技術）を地域課題の解決方法として結びつけることができるような、デジタル人材（ヒト）が不足している。
- 開発は国の交付金頼みでランニングコストも重い（カネの不足）。

東京と地方の共存共栄に向けて

提案

- ヒトの不足をGovTech東京に支援してもらえないか？
- 東京都にも過疎地域や島しょ部など、いわゆる地方はある。そうした地域の課題解決に資するデジタルサービスは全国で利用できるのではないか？
- 東京発のデジタルサービスを地方がサブスクで利用する仕組みはできないか？

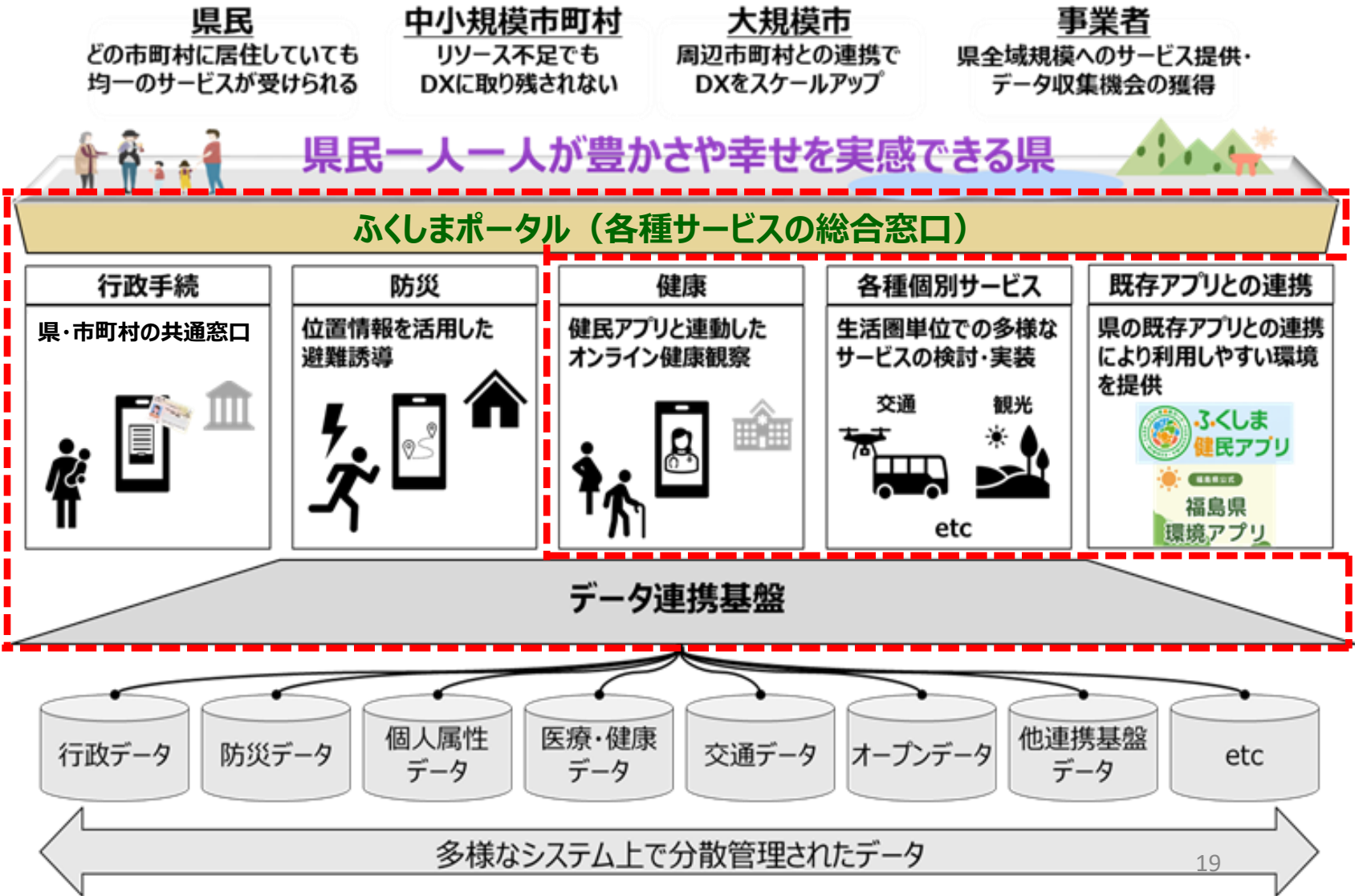
參考資料

福島県のデータ連携基盤と各種サービス

R5構築

県が全県的に共通のデータ連携基盤を整備し、県としての共通サービスや市町村が整備する個別サービスを実装することにより、県内全59市町村のスマートシティに係る取組みを加速させ、復興・再生と地方創生を切れ目なく進め、県民一人一人が豊かさや幸せを実感できる県づくりを推進する。

- 県が構築したデータ連携基盤を活用し、市町村が個別サービスを実装する。
- 県としても、「行政手続」、「防災」分野等のサービスを実装し、市町村に展開する。



データ連携基盤の参加市町村数	
R5年度 (実績)	R6年度 (実績)
5	27

ふくしまポータル

□ 各種サービスの総合窓口となるアプリとして構築

【機能概要】

共通ID

- 1IDで行政手続サービス・防災サービスの他、今後追加されるポータル上の全サービスを利用可能で、煩わしい複数ID/Passの管理が不要

本人確認

- マイナンバーカードでの本人確認はもちろん、確認結果を各サービスに引き継ぐことで、サービス毎の本人確認を省略可能

ユーザの意見投稿

- 紙やバラバラの様式で実施していたアンケート等をポータル上で実現
- 統一感があり操作性が同じなので回答方法に迷わない

欲しい情報・サービスが簡単に見つかる！

手軽・気軽に行政やサービスへの意見を届けられる！

サービス間の自己データ流通をまとめて管理出来て安心！

複数ID/Passの管理やサービス毎の本人確認が不要！



オプトイン履歴管理

- 自身がいつ何にオプトインして、どのサービスからどのサービスへ自己データが連携されたか確認可能
- いつでもオプトアウト可能で、安心・安全なデータ流通管理が可能

ニュースフィード

- サービス追加/更新のお知らせの他、地域のイベント情報・子育て情報等ユーザの属性に応じた“今欲しい情報”を市町村を跨いでお届け

パーソナライズ

- 利用中サービスの他、マイページで設定した居住地・通勤先・属性・興味等をもとにしたおすすめサービス・情報を表示



ふくしまポータル

令和6年3月リリース

今後のサービス展開の予定

□ 今後、課題解決促進会議（県・市町村）で検討したサービス等を提供予定

R5時点実績



行政手続サ
ービス

【行政手続サービス】

- 概要：
県や市町村宛の各種手続
がオンラインで実施可能。必
要手続のガイダンスや豊富
な入力補助機能を有する。
- 提供：BSNアイネット社



防災アプリ

【福島県防災アプリ】

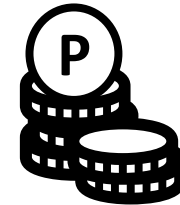
- 概要：
災害情報提供や避難誘導、
避難計画作成等の機能を有
する。県が全県民向けに展開。
- 提供：NTTデータ/
1st Media

※R6年度中に避難所チェッ
クイン機能を追加実装予定。

R6、R7以降（予定）



【電子回覧板
サービス】



【地域ポイント
サービス】



【生活交通
サービス】



【福島県
環境アプリ】



【ふくしま
健民アプリ】

etc...